

# U M S

*Universal Management System*

ご使用前に、「安全上のご注意」を必ずお読みください。

Ver1.9

## - 目 次 -

1. 仕様	3
2. プログラム設置	4
3. ログイン	6
4. メインメニュー設定	8
5. デバイス登録	9
6. 登録デバイス移動及び並び替え機能	16
7. デバイス接続/接続終了	17
8. デバイスビューアー実行	18
9. 画面表示機能	20
10. 画面分割モード	21
11. 順次接続(シーケンス機能)	22
12. マルチ・シングルモード	23
13. 音声機能(ライブ/再生共通)	25
14. PTZ遠隔操作	26
15. 検索	28
16. バックアップ	33
17. 映像キャプチャー	39
18. ズーム	40
19. 遠隔設定機能	41
20. デバイスヘルスマネージャー機能	41
21. デスクトップ通知	43

## ■ 1. 仕様 ■

PCの仕様やインターネット速度によってUMS機能に制限があります。

### PC推奨仕様

CPU	i5以上
MEMORY	4G以上
グラフィックカード	1G以上
ハードディスク	60G以上
OS	Windows 7 / 8 / 10
その他	DirectX 11C以上設置

#### [参考]

UMSプログラムは機能追加や性能向上を目的としてプログラムが更新される事があります。  
その際、PCの仕様によって機能が制限される場合や、PCの推奨仕様が変更される事があります。

## 2. プログラム設置

[1] CDの中からUmsSetup.EXEファイルを実行します。

[2] 下記の順序に従って設置してください。



上の画面で“次へ”ボタンをクリックします。



上の画面で“次へ”ボタンをクリックします。

# Universal Monitoring System



上の画面で“次へ”ボタンをクリックします。  
保存先に変更がある場合のみ、“変更”を選択し、保存先を指定します。



上の画面で“次へ”ボタンをクリックします。



上の画面で“次へ”ボタンをクリックします。  
設置が正常に完了されたら、デスクトップに設置されたアイコンが表示されます。



## 3. ログイン

デスクトップのUMSアイコンをクリックすると、ログイン画面が表示されます。

※設定でログインスキップをするとログイン画面は表示されません。



初期パスワードは下記を参考にしてください。

ユーザー区分	初期パスワード
admin(最終管理者)	admin
puser (中間管理者)	puser
user (一般ユーザー)	user

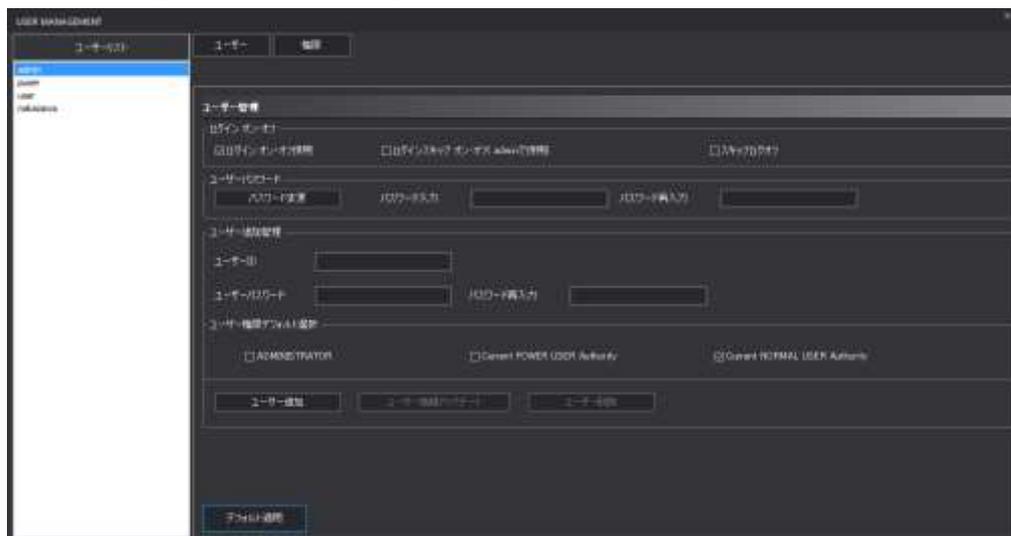
ユーザー権限の設定は必ず管理者でログインしてください。



権限設定をするにはUMS設定 -> ユーザー権限管理で設定します。

# Universal Monitoring System

下図のように権限設定がポップアップされます。



上図の左側にあるユーザーリストでユーザーを選択後、下記の項目の設定が出来ます。

ユーザー	ユーザーパスワード	選択されたユーザーのパスワードを変更します。
権限	デバイス管理	選択されたユーザーのデバイス登録関連の権限を設定します。
	監視	選択されたユーザーの監視機能関連の権限を設定します。
	検索	選択されたユーザーの検索機能関連の権限を設定します。
	デバイスヘルス	選択されたユーザーのデバイス状態関連の権限を設定します。
	UMS設定	選択されたユーザーのオプション関連の権限を設定します。

## 4. メインメニュー説明

UMSの上部にある5つのメニューで構成されています。

このメニューについては今後、機能改善を目的に変更される場合があります。

※温度監視の項目は監視カメラとは別用途のため、マニュアル上では記載されていません。

### [1] デバイス設定



デバイス設定では、監視するためのデバイスの登録、修正、削除が出来ます。

また、登録デバイスのインポート、エクスポートが出来ます。

### [2] 映像監視



映像監視では、登録したデバイスの接続、接続終了の他に、キャプチャー、バックアップ、PTZ制御、順次切替え等、様々な機能が使用出来ます。

### [3] 検索



検索では、選択したデバイスの再生出来る他に、キャプチャー、バックアップ機能が使用出来ます。

### [4] デバイス状態



デバイス状態では、登録されたデバイスのネットワーク、センサー、ビデオロス、HDDエラー、システムエラーを遠隔から確認出来ます。

## [5] UMS設定



UMS設定では、UMS上のOSDやフォントサイズ等の設定が出来ます。

## 5. デバイス登録

遠隔監視するためには、デバイスの登録が必要です。デバイスのメーカーによって登録方法が異なります。登録したデバイスは情報のリストに追加されます。

**[順序-1] デバイスを登録するには“デバイス設定”メニューを選択します。**



**[順序-2・1] エリア管理**



上図の赤枠にあるエリア管理を選択すると、エリアの追加/変更/削除をする事が出来ます。

※エリアごとに分けない場合はエリア追加する必要はありません。

 <b>エリア追加</b>	エリアを新規作成する際に選択します。
 <b>エリア変更</b>	登録されているエリアを修正変更する際に選択します。
 <b>エリア削除</b>	登録されているエリアを削除する際に選択します。

## [エリア追加メニューの説明]

上図のように“AREA NAME”に任意の名前を入力します。エリアリストの名称になります。

“AREA Information”は参考用の説明になり、エリアリストへの表示はされませんが、入力が必要になります。

“ADD AS ROOT”をチェックすると、メインフォルダーヘリストが作成され、チェックを入れないと選択したフォルダーの下層に作成されます。



(ADD AS ROOTをチェックした場合)



(ADD AS ROOTをチェックしない場合)

ADD AREA	エリアをリストに登録します。
UPDATE AREA	選択されたエリアの情報を更新します。
DELETE AREA	選択されたエリアを削除します。

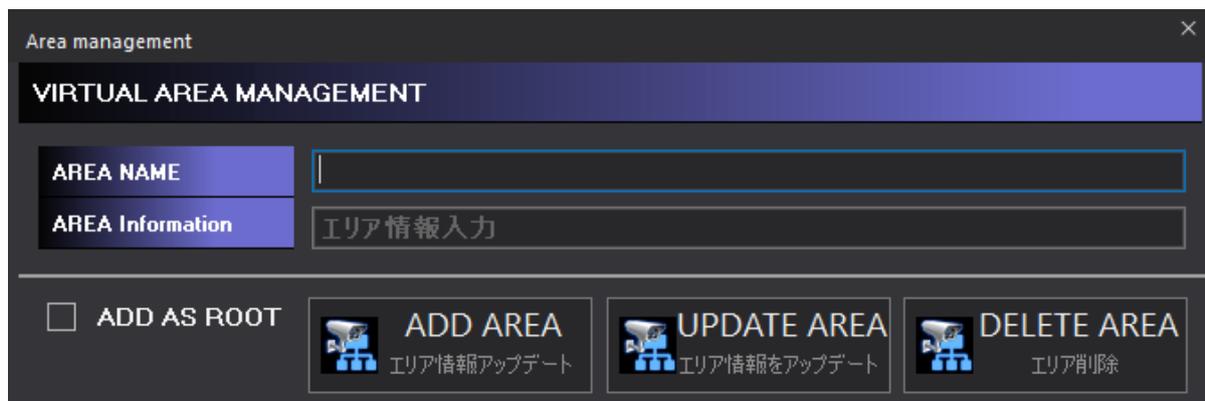
[順序-2・2] 監視デバイスの登録のために製品メーカーを選択します。



製品モデルによって登録ボタンが異なります。対象のモデルを選択して登録してください。

(下記の内容はフォーカス製品での説明になります。)

	4NSYS製品登録時に選択します。
	3R製品登録時に選択します。
	フォーカス製品登録時に選択します。



製品登録ウィンドウで監視デバイスの情報を入力します。

DEVICE NAME	ユーザー任意の名前を入力します。
DEVICE Information	参考用の説明を入力します。
LOGIN-ID	監視デバイスのログインIDを入力します。
LOGIN-PASS	監視デバイスのパスワードを入力します。
CH Count	監視デバイスのチャンネルを選択します。
DEVICE Address	監視デバイスのIPアドレスを入力します。(ローカルの場合のみ必要)
DEVICE port	監視デバイスの接続ポートを入力します。
DEVICE Web port	監視デバイスの設定ポートを入力します。
デバイスURL	流動的IPユーザーの場合、チェックしてDDNSアドレスを入力します。

# Universal Monitoring System

ADD AS ROOTにチェックを入れると、最上位のフォルダーに作成され、チェックを入れないと、選択したフォルダーの下層に追加されます。

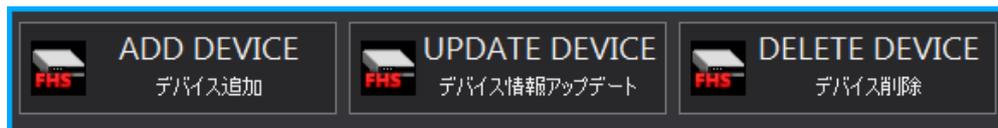


(ADD AS ROOTチェックがない場合)



(ADD AS ROOT チェックした場合)

## [順序-4] ADD DEVICE / UPDATE DEVICE / DELETE DEVICE



ADD DEVICE	デバイスリストに追加登録します。
UPDATE DEVICE	選択されたデバイスの情報を更新します。
DELETE DEVICE	選択されたデバイスを削除します。

## インポート/エクスポート設定

既存のCMSに登録していたデバイスデータをUMSにインポート/エクスポートします。

### 1. CMSの登録デバイスデータのインポート

#### 【順序-1】

インポート前に下記の作業を行ってください。

PC>>Windows(C:)>>Program Files(×86)>>SurveillanceSystem>>CMS>>Config  
>>cms.iniをクリックしてください。

ファイルを開いて、下図のように1行段を空けて、デスクトップ等に保存します。

※保存する際に、文字コードをUTF-8を選択して保存してください。



#### 【順序-2】

デバイス設定の中にある『FNS CMSデバイスインポート』をクリックします。

#### 【順序-3】

追加するデバイスの地域名を選択します。

※地域名を選択しない場合は、ルートをクリックします。



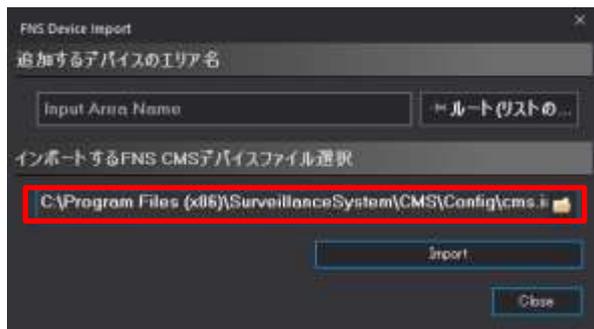
### 【順序-4】

順序-3のイメージ図の赤枠にあるフォルダマークをクリックします。

順序-1で保存したファイルを選択します。

### 【順序-5】

下図のようにインポートするファイルが表示されたのを確認してから、Importボタンをクリックすると、情報のリストに反映されます。



## 2. UMSの登録デバイスデータのインポート/エクスポート

### 【順序-1】

下図にある『UMSデバイス情報のインポート・エクスポート』をクリックします。



### 【順序-2.1】エクスポート方法

エクスポートの項目のフォルダーをクリックして、保存先を選択します。

Exportをクリックすると指定した保存先に保存されます。

保存先には下図のように『device.vdfg』で保存されます。



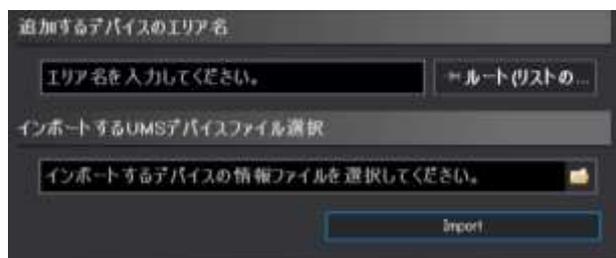
### 【順序-2.2】インポート方法

インポートするエリア名を記入します。

※エリア名を記入しない場合は、ルートボタンをクリックします。

インポートの項目のフォルダーをクリックしてエクスポートしたデータを選択します。

Importをクリックすると、情報にデータが反映されます。



## 6. 登録デバイス移動及び並び替え機能

この機能はすでに登録されているリストを名称順に並び替えをする事が出来ます。

### マウスのドラックで移動

デバイスを他のエリアにドラッグ & ドロップして移動する事が出来ます。

※エリア内のエリア移動はドラッグ & ドロップ機能は使用できません。



### [5-2] 並び替え機能

エリア名上で右クリックをするとメニューが表示されます。

下図の赤枠の『サブ項目並び換え』をクリックするとアルファベット順に並び換わります。

※あいうえお順、数字順にも自動で並び換わります。



## 7. デバイス接続/接続終了

下記の方法で接続/接続終了する事が出来ます。

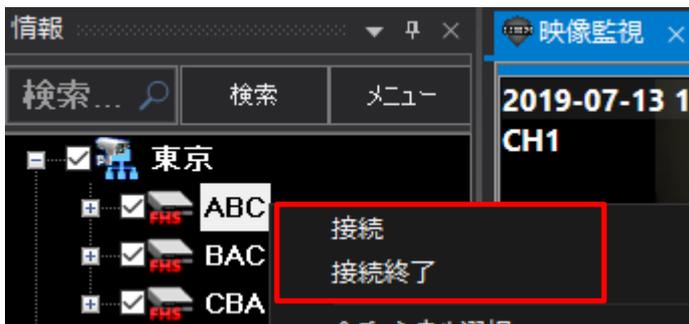
### [1] リストをダブルクリックして接続



接続するリストをマウスの左ダブルクリックをすると接続されます。

※接続のみ可能です。

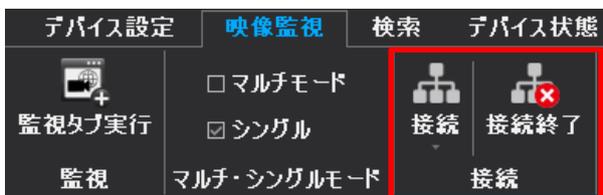
### [2] リストポップアップメニューで接続と接続終了



接続するリスト上でマウスの右クリックをして、ポップアップメニューを表示させます。

ポップアップメニューの接続/接続終了を選択します。

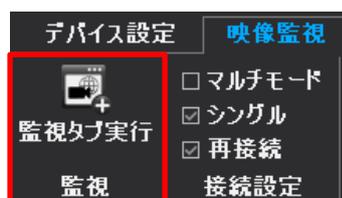
### [3] 接続メニューで接続/接続終了



映像監視の赤枠部分で接続/接続終了が出来ます。

## 8. デバイスビューアー実行

映像監視の『監視タブ実行』をクリックすると複数の映像監視画面が表示されます。  
 複数のデバイスを様々な方法で映像出力が可能となります。



### [1] 縦方向に出力させる方法

#### 【順序-1】

監視タブ実行で映像監視を複数にした後、映像監視上で右クリックをします。  
 下図のように『新規タブグループを作成[縦方向]』が表示されます。



#### 【順序-2】

上記の項目をクリックすると、下図のように縦方向で表示されます。



## [2] 横方向に出力させる方法

### 【順序-1】

監視タブ実行で映像監視を複数にした後、映像監視上で右クリックをします。  
下図のように『新規タブグループを作成[横方向]』が表示されます。



### 【順序-2】

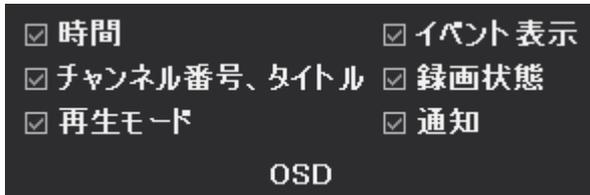
上記の項目をクリックすると、下図のように横方向で表示されます。



(監視ウィンドウを追加して2台~4台のモニターにそれぞれ移動して配置も可能です。)

## 9. 画面表示機能(ライブ/再生共通)

UMS設定の中にある下図の表示メニューにチェックを入れる事により表示させたいOSDを選択出来ます。



<b>A</b>	映像のライブ時間を表示します。			
<b>B</b>	チャンネル番号、タイトルを表示します。			
<b>C</b>	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 赤色表示は録画中に表示されます。</li> <li>② 青色表示はライブ状態を意味して、赤色表示は再生モードを意味します。</li> <li>③ イベントが発生時、黄色で表示します。</li> </ul>	3	2	1
3	2	1		

※イベントが発生すると、画面の上下に赤い帯で表示します。

## 10. 画面分割モード

映像監視の中にある画面分割モードで、希望の分割表示を選択出来ます。

決められた分割比率の中から選択する方法と縦横の分割比率を自由に設定する方法の2つがあります。

※2つの方法共に最大256分割まで可能となります。

### [1] 決められた分割比率から選択

画面分割モードをクリックして、決められた分割比率の中から選択します。

※最大16×16の256分割まで可能



### [2] ユーザー任意の画面比率を選択

ユーザー任意の画面分割はHOR(横方向の画面数) X VER(縦方向の画面数)を選択後、“適用”ボタンをクリックすると変更出来ます。

※最大16×16の256分割まで可能



## 11. 順次接続(シーケンス機能)

順次接続とは、選択したリストのデバイスを指定した時間と分割画面で順次切替える機能です。

### 【順序-1】

映像監視の中にある順次接続で切り替える時間と同時接続台数を選択します。

同時接続台数を1台から10台まで選択可能です。(EA)

切替え時間は20秒から10分まで選択可能です。(SEC)



### 【順序-2】

順次接続をクリックすると、登録されているデバイスの順次切替えが開始します。

### 【順序-3】

すべての接続終了をクリックすると、接続されているデバイスが接続終了します。

すべての接続終了の中にある順次接続終了をクリックするとデバイス接続はしていますが、順次切替の機能のみ終了されます。



## 12. マルチ・シングルモード

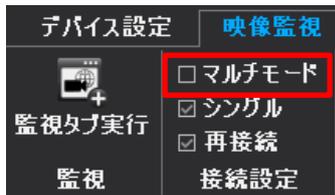
接続モードはシングルモードとマルチモードの2つがあります。

シングルモードは、映像監視に1つのデバイスのみ接続が出来ます。

マルチモードは、映像監視に複数台のデバイスを同時出力する事が出来ます。

### 【1】マルチモード

下図の赤枠にあるマルチモードにチェックを入れます。



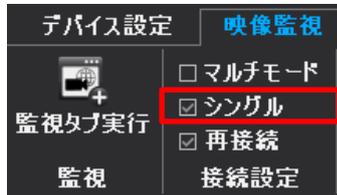
マルチモードでは接続したデバイスが下図のように複数台同時に接続されます。

※パソコンの性能によって接続台数が増えると接続が途切れる場合があります。



## 【2】シングルモード

下图の赤枠にあるシングルモードにチェックを入れます。



シングルモードでは1つのデバイスが接続されます。



### 13. 音声機能(ライブ/再生共通)

音声機能はライブ、または再生時に音声を出力する事が出来ます。



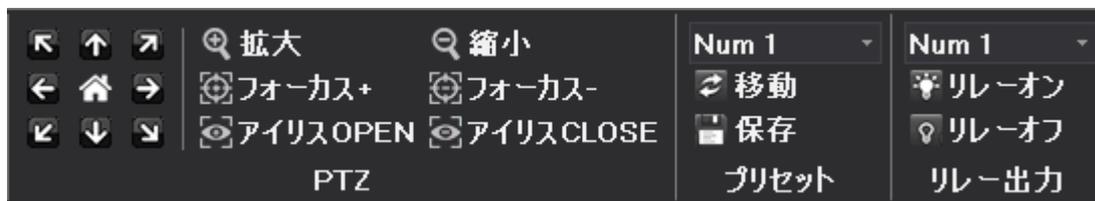
リストの中から音声を使用するデバイスを選択及び接続後、“音声”アイコンをクリックして、希望のチャンネルを選択する事で使用出来ます。

(オプション)

自動	1つのチャンネルをクリックしてFULL画面にすると自動で出力されます。
<input checked="" type="checkbox"/> オフ	チェックすると、音声出力されません。

## 14. PTZ 遠隔操作

遠隔でPTZカメラを操作出来る機能です。遠隔で操作するためには監視デバイスでPTZ設定をしてください。



PTZが設置されたチャンネルを選択してFULL画面にしてメインメニューから操作が可能です。

※複数の箇所で遠隔接続して、PTZカメラの操作があった場合、後から操作をしたデバイスが動かす事が出来ます。

	<p>PTZカメラの方向移動を操作します。</p>
	<p>PTZカメラ映像を拡大、縮小します。</p>
	<p>PTZカメラ映像のフォーカスを調整します。</p>
	<p>PTZカメラ映像のアイリスを調整します。</p>
	<p>プリセット機能を使用出来ます。 最初にプリセット番号を選択後、“移動”ボタンを選択すると、移動及び保存する事が出来ます。</p>
	<p>遠隔で強制的にアラーム出力を作動させる事が出来ます。 (モデルによっては対応しない場合もございます。)</p>

## プリセット機能

### 【順序-1】

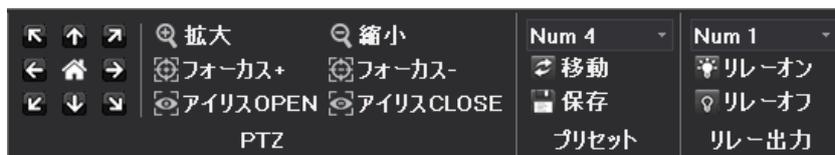
操作したいカメラをフル画面で表示させます。



### 【順序-2】

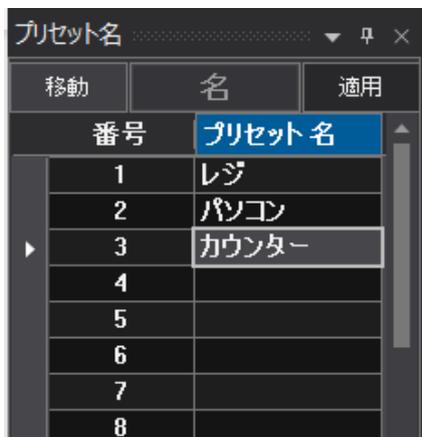
下図の方向キーで設定したい位置まで移動させます。

移動後、プリセット番号をNum1-Num250から選択して保存します。



### 【プリセット名】

プリセット名とは順序-2で設定したプリセット位置をNum1のように番号ではなく、下図のように名前で選択する事が出来ます。例えば、プリセット1をレジに設定して、移動ボタンまたは、番号をダブルクリックすると、設定した位置に移動します。



## 15. 検索

様々な方法で検索出来ます。

時間検索、イベント検索、カレンダー検索、ターゲット検索があります。

### [参考]

※インターネットを通した検索のため、インターネット速度によって反応速度に差が出る事があります。

### [1] 時間検索

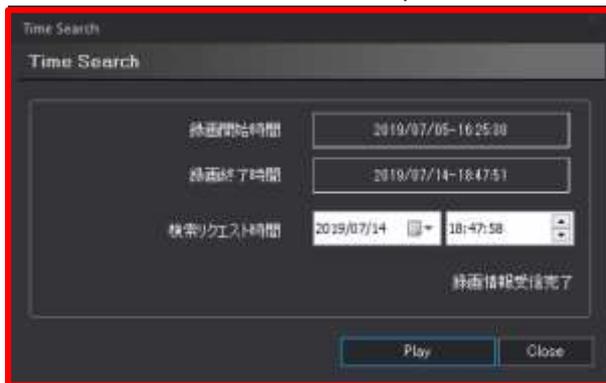
#### 【順序-1】

検索の中の時間検索をクリックします。



#### 【順序-2】

検索したい日付と時間を記入してPlayボタンをクリックします。



※監視デバイスによって表示されるメニューや機能の差がございます。

# Universal Monitoring System

## 【2】イベント検索

### 【順序-1】

検索の中のイベント検索をクリックします。



### 【順序-2】

カレンダー上で日付と、イベントが発生した時間帯を選択します。

確認したいイベント内容(すべて/センサー/モーション/ビデオロス/ディスクフル/ナンバー認識/顔認証)とチャンネルを選択後、ログ検索ボタンをクリックすると、イベントがリストに表示されます。



## 【順序-3】

確認したイベント内容をリスト上でクリックして、再生開始ボタンをクリックすると、その時間帯が再生されます。



※時間帯を選択してブックマークに追加ボタンをクリックすると、その時間帯が記録に残ります。

## [3] カレンダー検索

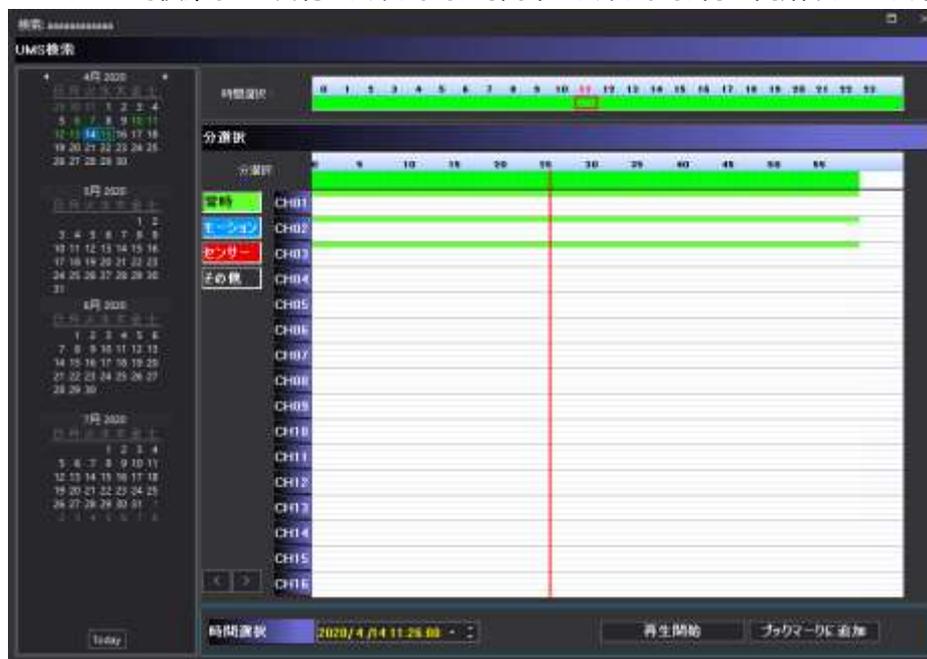
### 【順序-1】

検索の中のカレンダー検索をクリックします。



### 【順序-2】

カレンダー上で検索したい日付をクリックして、時間帯をクリックして、再生開始ボタンをクリックすると再生されます。



※時間帯を選択してブックマークに追加ボタンをクリックすると、その時間帯が記録に残ります。

確認方法は、UMS設定の中のブックマークにチェックを入れると、下図のように確認出来ます。

ブックマーク	▼	🔍	✕
番号	時間		
2	2019/07/12_09:25:00		

※ 監視デバイスによって表示されるメニューや機能の差がございます。

## 【4】ターゲット検索

### 【順序-1】

検索の中のターゲット検索をクリックします。



### 【順序-2】

下記の手順に従って、検索したい時間帯を探します。



(1) 上図の青枠の部分で希望のチャンネルを選択します。

## Universal Monitoring System

(2)上図の赤枠部分で、必要な静止画の日付、時間帯を選択します。

時間 : 指定した時間(0時~24時)内の1時間分の映像を1分おき(60枚分)の静止画として表示します。

日 : 指定した日付の1日分の映像を1時間おき(24枚分)の静止画として表示します。

月 : 指定した日付の前後15日間の映像を1日おき(30枚分)の静止画として表示します。

録画日付 : 録画データがある全ての映像を静止画として表示します。

(3)サムネイルリクエストをクリックすると、選択した時間帯の映像が静止画として表示されます。

(4)静止画像を確認して、映像を確認したい静止画の部分をクリックして、再生開始ボタンをクリックすると、その時間帯のデータが再生されます。

### [5] 再生ボタン機能

再生後、倍速/逆再生等を行うことができます。

	巻戻しボタン (クリックするたびに速度が速くなります。)
	停止ボタン
	再生ボタン
	早送りボタン(クリックするたびに速度が速くなります。)
	ライブモードに戻ります。

[再生モード画面]



映像が再生中の場合、上段の右から2番目のバーが赤色に表示されます。

\*倍速表示は製品のモデルによって最高速度が異なる事があります。

## 16. バックアップ

この機能はデバイスに保存された映像を遠隔でバックアップ出来る機能です。

遠隔バックアップにはライブバックアップとスケジュールバックアップがあります。



### [参考]

※インターネットを通してバックアップするため、インターネットの速度によって、反応速度に差が出る事があります。

### [1] ライブバックアップ機能

ライブバックアップとは、ライブバックアップボタンをクリックしてから、キャンセルするまでの時間帯をバックアップする機能です。

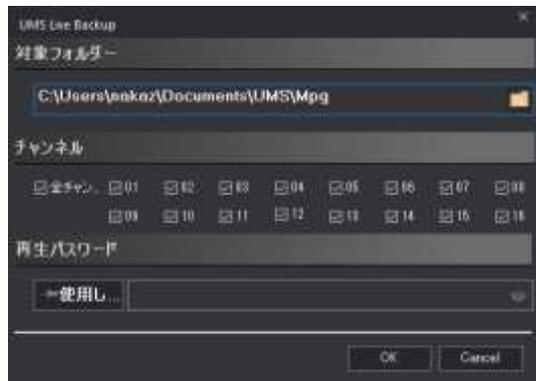
#### 【順序-1】

映像監視または、検索の中にあるバックアップからライブバックアップをクリックします。



#### 【順序-2】

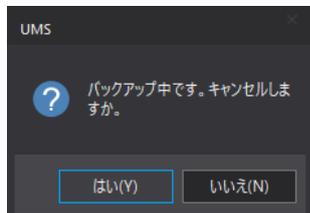
バックアップしたいデータの保存先とチャンネルを選択して、OKボタンをクリックします。



※再生パスワードからパスワードを管理する事も出来ます。

## 【順序-3】

再度、ライブバックアップボタンをクリックすると、下図のメッセージが表示されるので、はいのボタンをクリックすると、その時間までのデータが指定した保存先に保存されます。



※ 監視デバイスによって表示されるメニューや機能が異なります。

## [2] スケジュールバックアップ

スケジュールバックアップとはバックアップしたい日付/時間帯を選択してバックアップする機能です。

### 【順序-1】

映像監視または、検索の中にあるバックアップからスケジュールバックアップをクリックします。



### 【順序-2】

バックアップしたい日付、時間帯、チャンネル、保存先を選択して、確認ボタンをクリックします。



※ 監視デバイスによって表示されるメニューや機能が異なります。

## [3] ビュープログラム使用法

バックアップ後、バックアップされた映像を見るためのビュープログラムはモデルによって異なる事があります。

ビュープログラムがある場所は下記のフォルダーを参考にしてください。

32bit Windowsの場合 : C:\Program Files(x86)\SurveillanceSystem\UMS

64bit Windowsの場合 : C:\Program Files\SurveillanceSystem\UMS

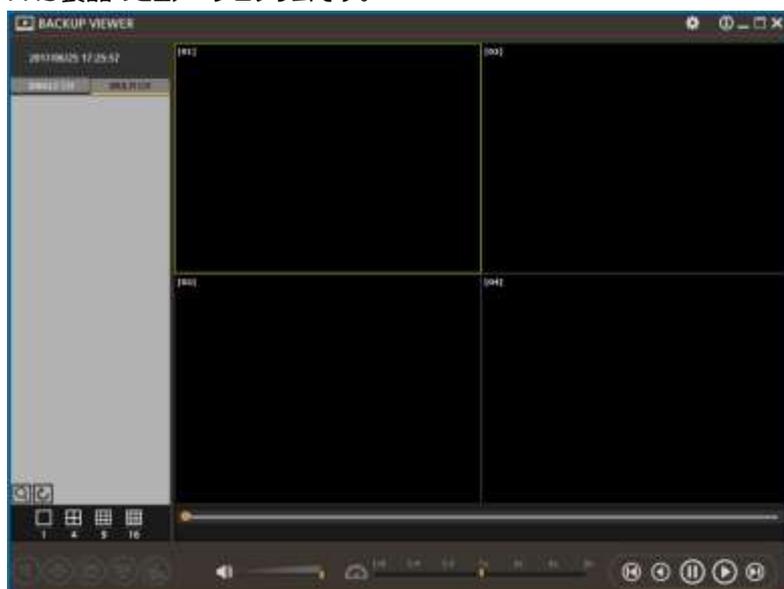
よく使用する場合は、デスクトップ上にショートカットを作成してご利用ください。

ビュープログラムは監視デバイスのモデルによって異なります。

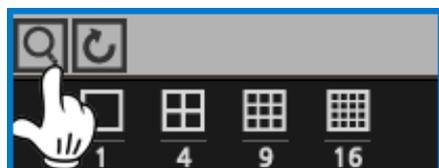
 BkViewer	FNS製品 (アナログDVR)
 BkViewerHD	FNS製品 (AHD, HD-SDI DVR)
 MultiBackupViewer	FHS製品 (AHD, EXSDI, NVR)

## [1] MultiBackupViewer 使用法

FHS製品のビュープログラムです。

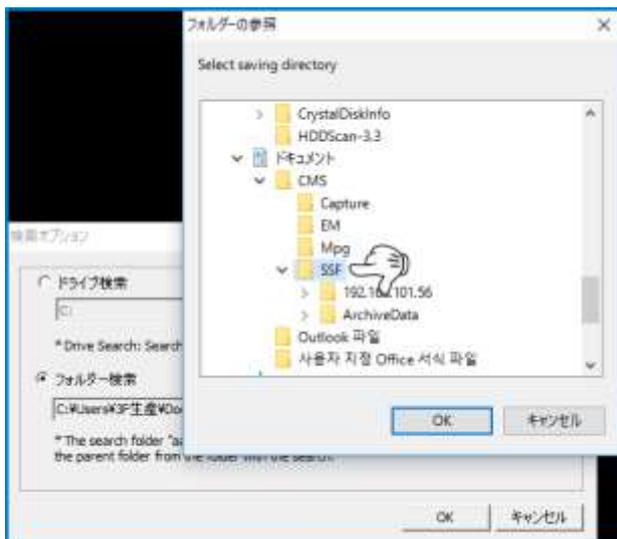


### ファイルを開く



ファイルを開く場合、映像データがあるメインディレクトリーを選択する事で、正常的にバックアップデータを読み込むことが出来ます。バックアップされた映像データは数字で表示されます。

# Universal Monitoring System



※重要 : データを選択時、データが入っているフォルダーのメインフォルダーを指定してください。

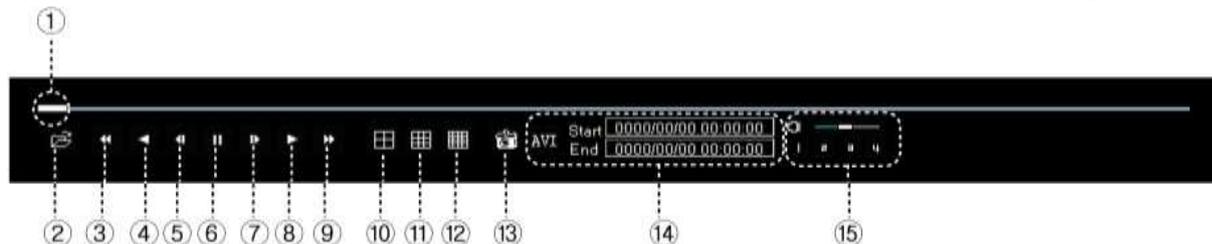
<p>SINGLE CH    MULTI CH</p>	<p>単一チャンネルのみ、または複数のチャンネル同時かを再生時に選択します。</p>
<p>Speaker icon and volume slider</p>	<p>出力音声の音量を選択します。</p>
<p>Playback speed slider with options: 1/8, 1/4, 1/2, 1x, 2x, 4x, 8x</p>	<p>再生速度を選択します。</p>
<p>Play/Pause, Previous, Next, Stop, Repeat, Shuffle icons</p>	<p>再生/逆再生/コマ再生等、再生方法を選択します。</p>
<p>Search icon</p>	<p>一時停止後、デジタルズームを使用します。(マウスホイール)</p>
<p>Print icon</p>	<p>一時停止後、画面をプリントする事が出来ます。</p>
<p>Image capture icon</p>	<p>一時停止後、イメージをキャプチャーする事が出来ます。</p>
<p>AVI conversion icon</p>	<p>一時停止後、映像をAVIに変換出来ます。</p>
<p>AVI file check icon</p>	<p>AVIファイルが変調されたのか確認出来ます。</p>

## [2] BKViewer 使用法

FNS製品のアナログ監視デバイスのビューアプログラムです。



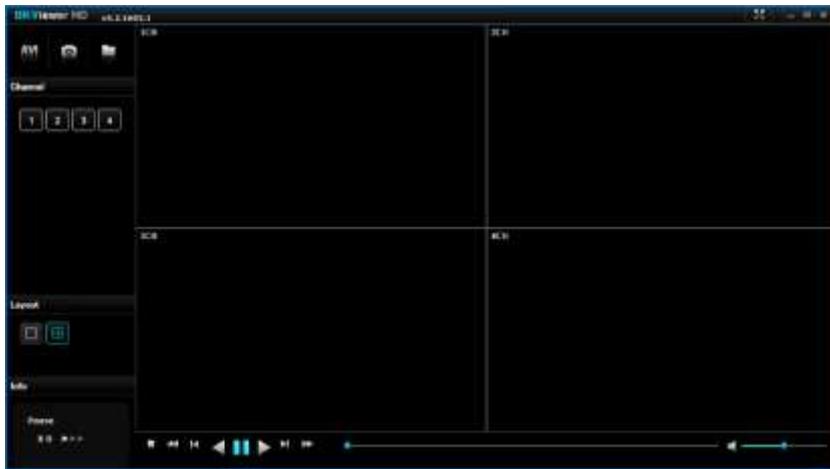
バックアップしたデータはパソコン上からビューアプログラムを利用し、再生速度などコントロールすることが可能です。



- ① スクロールバー：バーを移動して、再生位置を変更することができます。
- ② フォルダー：他のバックアップファイルを開くことができます。
- ③ 巻戻し
- ④ 逆再生
- ⑤ 逆コマ送り
- ⑥ 一時停止
- ⑦ コマ送り
- ⑧ 再生
- ⑨ 早送り
- ⑩ 4分割画面
- ⑪ 9分割画面
- ⑫ 16分割画面
- ⑬ キャプチャー：ドキュメント-CMS-MPGフォルダにイメージファイル(BMP)を保存します。
- ⑭ AVI変換：再生中にAVIファイルに変換する区間をそれぞれ“START”と“END”の空欄をクリックすると、時間が自動に入力されます。  
“AVI”ボタンをクリックして、変換するチャンネルなどを選択して、変換を開始します。
- ⑮ 音声出力：映像データとともに記録されている音声を出力することが出来ます。

## [3] BKViewerHD 使用法

FNS製品のAHD, HDSDI監視デバイスのビューアプログラムです。



	映像資料開く
	イメージキャプチャー機能
	映像をAVIに変換する機能
	チャンネル選択機能
	分割画面選択機能
	再生/逆再生/早送り機能
	音声の音量調節

## 17. 映像キャプチャー

この機能はライブ、再生映像のキャプチャーする機能となります。

### 【順序-1】

映像監視または、検索中の映像キャプチャーをクリックします。

キャプチャー方式(JPEG/BMP/PNG/TIFF)を選択してクリックします。

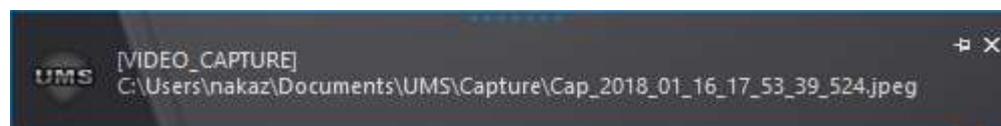


### 【順序-2】

順序-1の作業を行うと、下図のように画面右下に保存先が表示されます。

※保存名はキャプチャーした日付と時間で保存されます。

フォルダーを開くのボタンをクリックすると保存先が自動で表示されます。



## 18. ズーム

この機能は、ディスプレイの映像を拡大/縮小する機能です。

### 【1】フル画面でのズーム方法

マウスホイールを使用して、拡大縮小する事が出来ます。



【ズーム前】



【ズーム後】

### 【2】分割画面でのズーム方法

分割画面上でズームしたいチャンネルを選択後、【1】と同じように拡大縮小する事が出来ます。



【ズーム前】



【ズーム後】

## 19. 遠隔設定機能

この機能は、遠隔操作でデバイスの設定等を変更する事が出来ます。

映像監視の中のデバイス設定をクリックすると、デバイスログインメニューに移動します。



### [参考]

\* 遠隔設定方法は製品によって機能が異なりメニュー・ウィンドウも異なりますが、デバイス本体設定と同じような形式になっています。使用方法は監視デバイスマニュアルを参考にしてください。

## 20. デバイスヘルスマネージャー機能

デバイスヘルスマネージャー機能は、登録したデバイス状態を遠隔で確認します。

ネットワーク、センサー、ビデオロス、HDDエラー、システムエラーに対する問題が発生した際に通知します。

### 【順序-1】

登録されたデバイス上で右クリックします。

デバイスヘルスにデバイス追加ボタンをクリックすると、デバイスヘルスの画面が表示されます。



# Universal Monitoring System

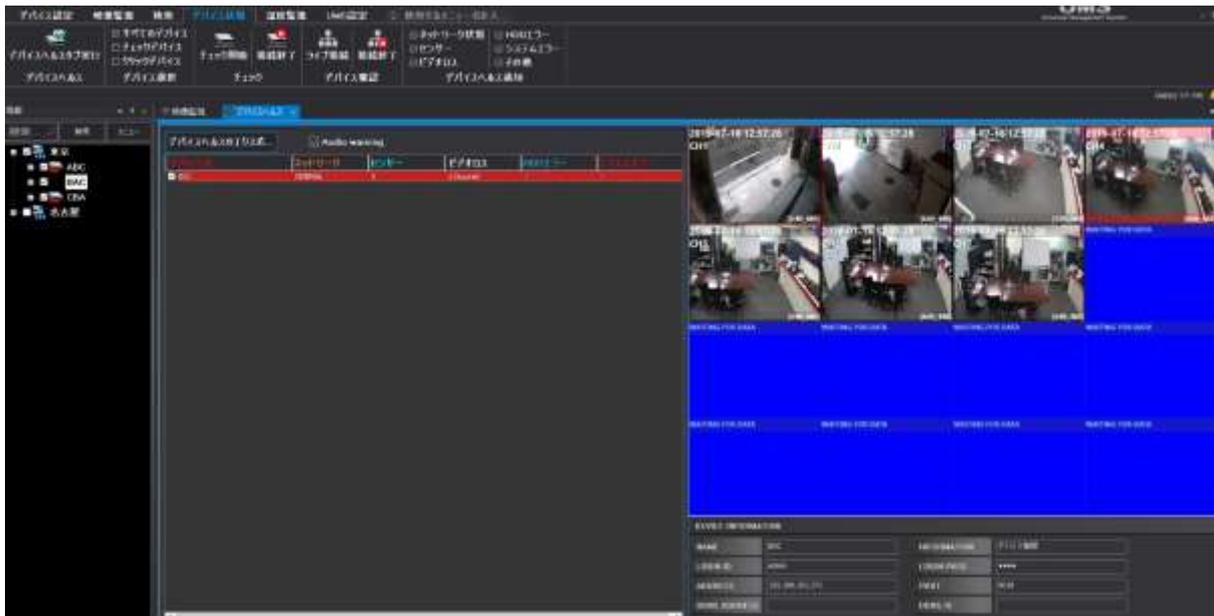
## 【順序-2】

順序-1を行うと下図の画面が表示されます。

チェック開始ボタンをクリックすると、デバイスに異常がないかチェックが始まります。

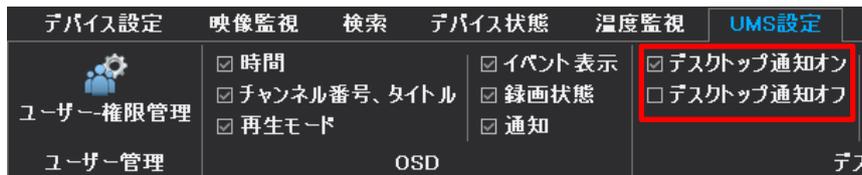
チェック項目は、ネットワーク、センサー、ビデオロス、HDDエラー、システムエラーとなり、異常があると赤ラインで表示されます。

また、デバイス名をクリックすると、ライブ映像が右側に表示されます。



## 21. デスクトップ通知

この機能はUMSプログラムを実行後、プログラムを閉じずに、最小化する時に様々なイベントに対してアラームウィンドウを表示する機能です。



上図のように“デスクトップ通知ON”した時には、選択されたイベントが発生時ウィンドウの下端右側にメッセージで通知される機能です。

